

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 78

2014年6月17日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、田中康隆先生です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. JST「平成26年度第2回A-STEP公募説明会」のご案内
2. 「第8回ビジネスマッチングフェア in Hamamatsu」に出展します
3. 「静岡大学共同研究希望テーマ説明会」を開催します

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は[at]を@に変更してください。

1. JST「平成26年度第2回A-STEP公募説明会」のご案内

説明会では、科学技術振興機構本部から講師をお迎えして、A-STEP（研究成果最適支援事業）の事業内容について説明いただきます。ぜひこの機会にご相談ください。多数のご参加をお待ちしております。

日時 2014年7月4日（金）14：00～16：00

会場 【メイン会場】

静岡大学浜松キャンパス 総合研究棟10階1005会議室

【TV会議システム聴講】

静岡大学静岡キャンパス 理学部D棟3階TV会議室

主催 (独)科学技術振興機構、静岡技術移転合同会社（静岡TTO）

静岡大学イノベーション社会連携推進機構

プログラム

14：00～14：40 A-STEP・FSステージ公募要領の説明

14：40～15：00 質疑応答

15：00～16：00 技術相談（浜松会場のみ先着4名）

申込〆切 6月27日（金）

申込/詳細 http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/inno_event001771.html

問合せ先 静岡大学イノベーション社会連携推進機構

TEL 053-478-1708

E-mail osawam[at]ipc.shizuoka.ac.jp

2. 「第8回ビジネスマッチングフェア in Hamamatsu」に出展します

静岡大学との産学連携をご検討の皆さま、ぜひこの機会に静大ブースにお立ち寄りください。コーディネーターがサポートいたします。

日時 2014年7月23日（水）10：00～17：00

7月24日（木）10：00～16：00

会場 アクトシティ浜松 展示イベントホール

静岡大学の出展内容

J-9 静岡大学の研究シーズと大学発ベンチャー企業

詳細 <http://www.hamamatsu-bmf.jp/>

静岡大学の問合せ先 イノベーション社会連携推進機構

TEL 053-478-1713

3. 「静岡大学 共同研究希望テーマ説明会
—しずだいとつながるシーズを大公開—」を開催します

静岡大学の研究者が、実用化を目指した研究シーズをご紹介します。
多数の皆さまのご参加をお待ちしております。

日時 2014年7月28日（月）13:00～16:50
会場 アクトシティ浜松研修交流センター 62研修交流室
主催 静岡大学イノベーション社会連携推進機構

プログラム

■特別講演：13:05～13:50

「経営革新の着眼点と展開方法～浜松町工場での実践事例を中心に」
田中 宏和（情報学研究科 教授）

■研究シーズ発表：14:00～16:50

1. ウイルスを短時間で検出可能に！！
～磁気微粒子を用いたウイルス検出システムの開発～
永津 雅章（創造科学技術大学院 教授）
2. 電池不要のセンシング？！
～インピーダンス負荷パッシブSAWセンサを用いたセンサシステムの研究～
近藤 淳（創造科学技術大学院 教授）
3. スマートフォン画面や車窓にも応用可能な透明アンテナ！！
～多機能アンテナの自動設計～
桑原 義彦（工学研究科 教授）
4. バイクを情報科学する！バイクで情報科学する！
～Bikeinformatics: 二輪車によるセンシング基盤とビッグデータの構築～
木谷 友哉（情報学研究科 准教授）
5. 光と画像処理に基づくどこでも使える無線通信システム
～並列伝送型無線可視光通信システムの開発～
和田 忠浩（工学研究科 准教授）
6. ポストIT0新規透明電極材料を探る
～資源量の豊富な黒鉛から高品質なグラフェンの量産化技術の開発～
孔 昌一（工学研究科 准教授）
7. 生産現場で低コスト・高速・高分解能計測を可能にする！
～低コヒーレンス干渉を利用した高分解能な工業用顕微鏡の開発～
臼杵 深（工学研究科 准教授）
8. より高精度・低コストなものづくりをめざして
～高精度な材料モデルによる塑性加工シミュレーション～
早川 邦夫（工学研究科 教授）

お申込/詳細 http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/inno_event001781.html
申込〆切 7月23日（水）

問合先 静岡大学イノベーション社会連携推進機構
TEL 053-478-1413

《 みんなのコラム -72- 》

記：工学研究科電子物質科学専攻 准教授 田中康隆

企業との共同研究は実に楽しい。一番の醍醐味は自分が開発した分子が、その企業の製品に取り入れられた時。社会に貢献したという充実感と共同研究をやり遂げた達成感を味わう事ができる。私は有機化学を生業（なりわい）としており、工業高等専門学校出身なので15歳の春から実験台の前に立ち、新しい分子を作る作業である「有機合成化学」に取り組んでいて、現在進行形である。

学生時代も、そして静岡大学に就職した後も、専門は一貫して有機化学であるが、つくる分子の対象が「医薬品」候補であったり、あるいは天然の酵素の機能だけを人工分子で再現しようとする「バイオミメティック化学」であったり、よわい分子と分子の間の引力に焦点を当てせる「超分子化学」であったり、比較的実用からは遠い分野で仕事をさせていただいていた。数年前に同じ学科の先生から「電池をやらないか？」と誘っていただいたのをきっかけに、有機化学や有機合成化学を切り口とした「電池の科学（化学）」もやる事となった。企業等も紹介してもらうことで、当初から複数の共同研究を実施させていただいている。

企業との共同研究ではタイムスケジュールが全く異なる。当然ながら先ずは「権利化」である。そうしないと、いままで全く考えてこなかった「逆算」を行なわなければならない。早々と、「この大学院生は、この学会で発表させる。そのためには何月何日までに企業と共に権利化を行う。」と逆算しないと、共同研究も学生の修了や卒業も立ちゆかなくなる。お伺いを立てる先は共同研究先の企業と自分の所属先の静岡大学の双方。これらを平行して逆算する。いままで全く気にしていなかった「学会の要旨の公開日」に目くじらを立てる様になった。「おいおい、要旨公開日くらいホームページに載せろよ。」と一人コンピューターの前で悪態をつくようになった。企業側には大学の、と言うか先生としての状況を最初によく理解していただく事が大切である。ほんのこの頃、この逆算にも慣れてきた。今年も逆算快調である。

先生方の中には「私は基礎研究なので共同研究には向かない」と言われる方がおられる。私もそう思ってきた。分野にもよる事は承知で、かつ生意気を顧みず述べていただくと、実社会で活かせる大学の研究力はまだまだあると思う。そのために、先生方は自分の研究だけにこだわらずに構えをやや広めにし、一方で大学は誰が何をできるかを集計して企業側に提示できる様な事ができれば意外とマッチするのかもしれない。共同研究に慣れていない企業が多数を占めるので、企業側に共同研究の進め方もお伝えしていただく事ができればスムーズなのかもしれない。

「お金をもらえた。ラッキー」で共同研究の責任は果たせない。企業を納得させる、できれば利する結果が必要である。そのためには、企業の興味と大学側の興味の方向が重なるあたりで研究を遂行できれば、これがお互いにとって大変喜ばしい事である。時には企業の興味をこちらに引き寄せる事もできると思う。自然と重なりが広くなり、共同研究の可能性が増す。今後も企業との共同研究を積極的に進めさせていただき、大学のあるいは日本の利益になる様な研究を行ないたいと常々考えている。

4月初旬に台北で開催されたAUTM Asia2014の報告第2弾です。

今回の発表の中で、東京中小企業投資育成株式会社のシニアアドバイザーの荒井寿光氏の発表は大変興味深いものでした。いわゆる、アベノミクスと呼ばれる日本再生戦略である三本の矢の政策、すなわち1. Bold Monetary Policy(大胆な金融政策)、2. Flexible Fiscal Policy(機動的な財政政策)、3. New Growth Strategy(新成長戦略)についての説明があり、特に3については、具体的なアクションプランが示されました。

そして、ベンチャー起業の促進、新しいマーケットの創造(健康医療、エネルギー、環境、IT)、産学連携の推進に加え、大学改革の必要性を力説されていたことが印象的でした。

これまでに、特許庁長官やWIPO(世界知的所有権機関)の政策委員を歴任され、自ら知財評論家を名乗られる荒井氏が、未だに「象牙の塔」である日本の大学を「イノベーションセンター」にすることの重要性を説かれていることを、改めて重く受け止めざるを得ない発表でした。

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - *

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・配信中止のご連絡は、[sangakukoho5\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp) までお願いします。(↑送付の際は[at]を@に変更してください。)

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構

編集：原典子

発行責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1

TEL 053-478-1414

URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - *

Copyright (c) 2008-2014

Organization for Innovation and Social Collaboration,
Shizuoka University. All rights reserved